

# 駿河湾 & 相模湾

## ハザードマップから見るプレジャーボート関連事故

運輸安全委員会事務局地方事務所による分析（横浜事務所）

令和7（2025）年4月発行

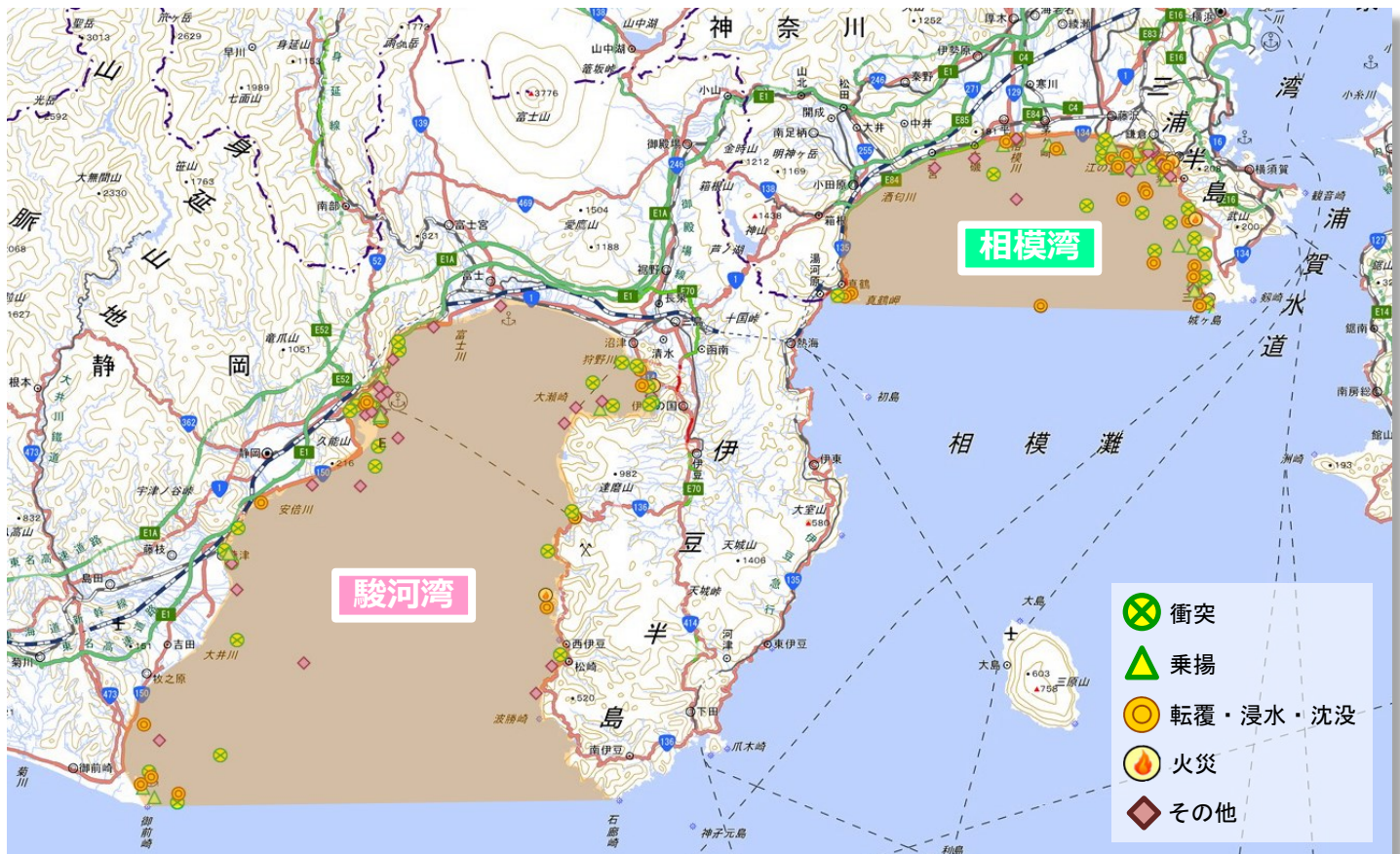
### 1. はじめに

運輸安全委員会事務局横浜事務所では、これまでにプレジャーボート<sup>※1</sup>関連の事故等にかかる発生状況、原因、再発防止策などを取りまとめ、東京湾における状況を令和4年7月に、また、伊勢湾・三河湾における状況を令和6年3月にそれぞれ公表しました。これらの情報は、「船舶事故ハザードマップ<sup>※2</sup>」に「注意喚起情報」として掲載し、プレジャーボートを利用される方々が航行計画を立てる際や航行中の安全運航の備えとして活用できるようにしています。

今回は、静岡県の「駿河湾」、神奈川県「相模湾」にスポットを当て、両海域で発生しているプレジャーボート関連の事故等（H20.10～R6.8 公表分）について、その傾向を分析するとともに、事例を紹介し、同種事故等の再発防止に向けたポイントを取りまとめました。

※1 モーターボート、水上オートバイ、ヨット、ミニボート、カヌー等

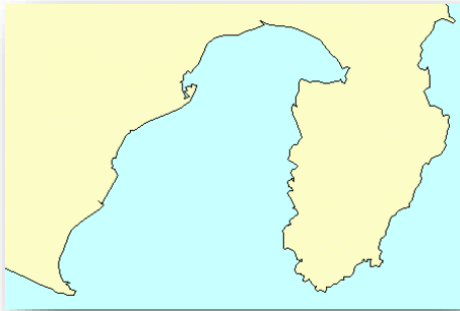
※2 運輸安全委員会では、事故等が発生した地点や海上交通のハザード情報を地図上に表示させる『船舶事故ハザードマップ（<https://jtsb.mlit.go.jp/hazardmap/>）』をホームページで公開しています。



## 2. 駿河湾と相模湾 プレジャーボート関連事故等発生状況

伊豆半島を挟んで東西に位置する駿河湾と相模湾では、プレジャーボート関連の事故等はどうのように発生しているのでしょうか。それぞれの海域で発生する事故の特徴を見ていきましょう。

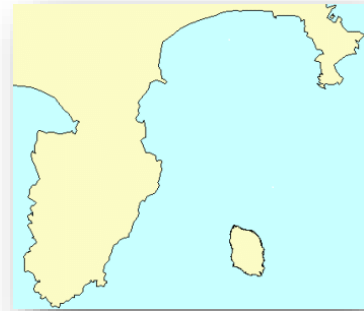
### 駿河湾



184件

発生件数（全船種）

### 相模湾



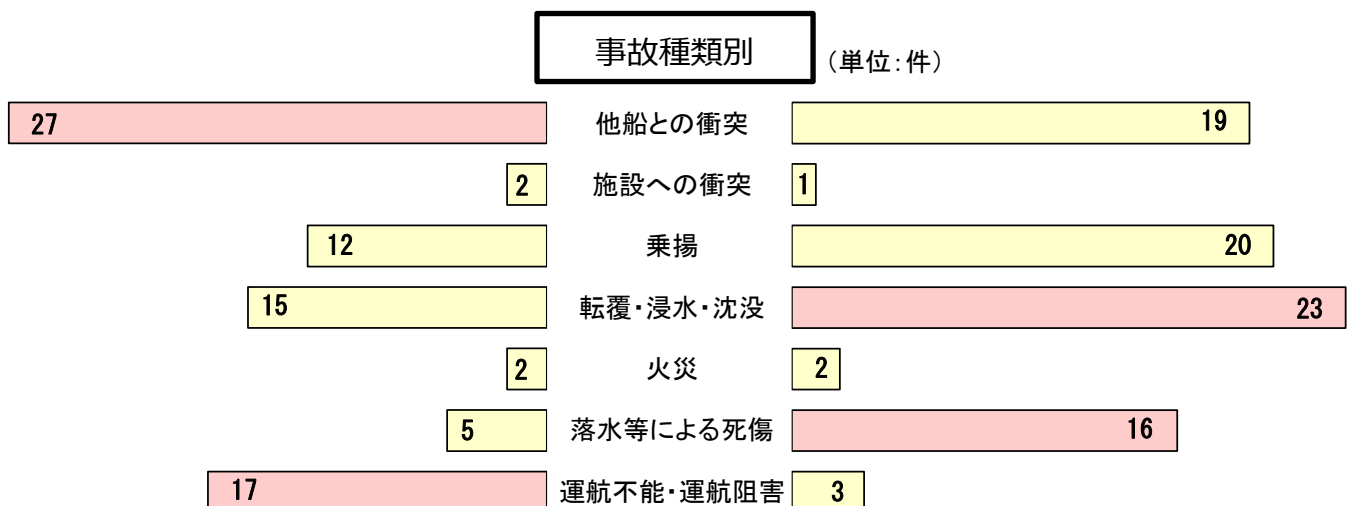
105件

プレジャーボートに特化すると・・・

80件

発生件数（プレジャーボート）

84件



次のページからは、両湾における発生分布及び駿河湾の「他船との衝突」「運航不能等」と相模湾「転覆・浸水・沈没」「落水等による死傷」の状況を詳しく見ていきましょう。

駿河湾では、港付近の沿岸部での発生がほとんどで、沼津港南方で「他船との衝突⊗」が8件、清水港周辺で「他船との衝突⊗」が7件、「運航不能等◆」が7件発生しています。



駿河湾における発生分布（全事故種類）

相模湾では、北～東側にかけて発生が集中しており、葉山沖で「転覆・浸水・沈没⊙」が12件、相模川河口で「落水等による死傷◆」が8件発生しています。



相模湾における発生分布（全事故種類）

(★：以降で事例を紹介)

### 3. 事故等種別ごとの傾向と事故事例

#### ✕ 衝突

沼津港南方 8 件（うちプレジャーボート 10 隻）及び清水港周辺 7 件（同 9 隻）の衝突事故に関連したプレジャーボート計 19 隻の主な原因を見ると、

適切な見張りが行われず、相手船に気付かなかった：10 隻

- 〈内訳〉・他の作業（釣り、揚錨、魚群探索）に意識を向けていた：4 隻
- ・過去の経験等から、他船はいないと思い込んでいた：3 隻
  - ・船首方に死角（窓枠など）が生じていた：2 隻
  - ・キャビンで休息を取っていた：1 隻

相手船に気付いたものの、適切な措置がとられなかった：9 隻

- 〈内訳〉・航行中の相手船が、漂流・錨泊中の自船を避けてくれると思った：5 隻
- ・相手船の船長が話をするために接近してきたと思った：2 隻
  - ・錨泊中、接近する相手船に手を振るなどしたが、そのまま衝突した：2 隻

#### 事例 1 航行中の他船が、漂流中の自船を避けてくれると思った

〈発生日時・場所〉平成 30 年 6 月 30 日 06 時 32 分ごろ

沼津市大瀬埼東方沖

〈概要〉プレジャーボート A は釣りをしながら漂流中、遊漁船 B は魚群探索をしながら航行中、両船が衝突した。

〈主な原因〉

##### プレジャーボート A

船長が、自船に向かって接近する B に気付いた。

「以前も航行している側が避けてくれたから、今回も B が避けるだろう。」と思い、漂流を続けていた。



沼津港南方

##### 遊漁船 B

船長が、ふだん見かける数隻の船以外を見かけなかった。

前方に船はいないと思い、魚群探知機を見ながら航行を続けた。

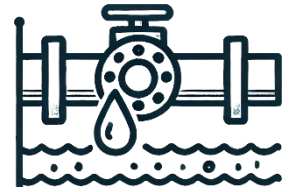
〈教訓〉

実は、見張りを行わずに航行している船がいることも・・・

自船に向けて接近する船に気付いた際は、その進路から外れる場所に速やかに移動しましょう。

## ◆ 運航不能・運航阻害

清水港周辺で発生した運航不能・運航阻害に関連したプレジャーボートは7隻で、その主な原因は、不適切な整備・点検であり、故障箇所は、エンジンのシリンダヘッド、ピストン、軸受のほか発電機のコイルなど様々です。



### 事例2 ピストンが焼き付き、船外機が動かなくなった

〈発生日時・場所〉令和3年6月20日09時55分ごろ  
静岡市新興津しんおきつふ頭北東方沖

〈概要〉プレジャーボートCは釣りをしながら漂泊中、船外機が始動せず、運航できなくなった。

〈主な原因〉船長は、Cを18年前に中古で購入して以降、船外機の定期的な整備を行っておらず、経年使用によって船外機のピストンが焼き付いた。



清水港周辺

#### 〈教訓〉

海上でエンジンを始動できなくなると、二次災害の危険があります。このような事態となった場合は、迷わず救助を求めましょう。

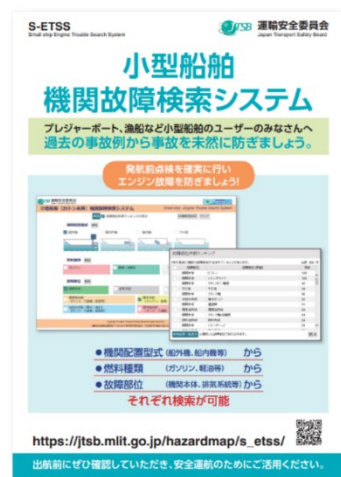
船長は、日頃から自らできるメンテナンスや修理業者に依頼するなど、定期的な整備・点検を行いましょう。

## お役立ち情報 ①

プレジャーボートなど小型船舶のユーザーに向け、過去にどのような事故が発生しているかを検索できる『小型船舶機関故障検索システム』を運輸安全委員会HPで公開しています。『機関配置型式』『燃料種類』『故障部位』の分類から点検・整備の注意点を知ることができます。

([https://jtsb.mlit.go.jp/hazardmap/s\\_etss/](https://jtsb.mlit.go.jp/hazardmap/s_etss/))

是非、ご自身が所有する船舶のエンジン型式などで検索いただき、エンジン故障の防止に役立ててください。



S-ETSS  
Small Ship Engine Failure Search System

小型船舶  
機関故障検索システム

プレジャーボート、漁船など小型船舶のユーザーのみならずへ過去の事故例から事故を未然に防ぎましょう。

発着点検索を確実にし、エンジン故障を防止しましょう!

- 機関配置型式 (船外機、船内機等) から
- 燃料種類 (ガソリン、軽油等) から
- 故障部位 (機関本体、排気系統等) から

それぞれ検索が可能

[https://jtsb.mlit.go.jp/hazardmap/s\\_etss/](https://jtsb.mlit.go.jp/hazardmap/s_etss/)

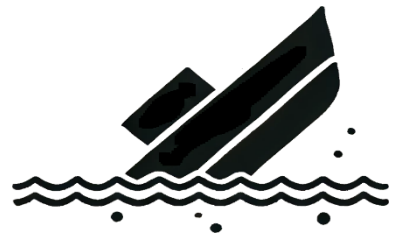
出航前にぜひ確認していただき、安全運航のために活用ください。



## ◎ 転覆・浸水・沈没

葉山沖で発生した転覆・浸水・沈没事故に関連したプレジャーボートは12隻で、その内容は、波・うねりの影響により転覆・浸水・沈没したケースが多くを占めています。

そのほか、「船体外板に亀裂が生じていることに気付かないまま出航して浸水」「ドレン抜きプラグの閉め忘れにより浸水」といった事例も発生しています。



### 事例3 横からの波を受け、片舷側が持ち上がって転覆した

〈発生日時・場所〉平成27年9月28日10時50分ごろ

鎌倉市稲村ヶ崎南方沖

〈概要〉プレジャーボートDはヨット4隻をえい航して航行中、左舷正横から2度の波を受けて左舷側が持ち上がり、右舷側に転覆した。

〈主な原因〉船長は、航行海域付近に浅瀬があることを知らず、台風の影響もあって高まったうねりを自船左舷正横に受けた。



葉山沖

#### 〈教訓〉

葉山沖では、浅瀬で大きな波が立つことがあります。

事前に航行予定海域の水路調査を十分に行い、浅瀬の場所を把握しておくとともに、うねりが生じている場合は、浅瀬を避けて航行しましょう。

また、救命胴衣を確実に着用するとともに、防水ケースに入れた携帯電話を携行して連絡手段を確保し、救助要請ができるようにしておきましょう。

## お役立ち情報②

これまでに、「東京湾」「伊勢湾・三河湾」にスポットを当てたプレジャーボート関連事故等の分析を行っています。

それぞれの海域でどのような事故等が発生しているのか、こちらを併せてご覧ください。

### 東京湾編



### 伊勢湾・三河湾編



## ◆ 死傷等

相模川河口で発生した落水等による死傷事故に関連したプレジャーボートは8隻で、その内容は、水上オートバイの危険な操縦により負傷者が発生しているケースが少なくありません。

また、救命胴衣を着用せずにプレジャーボートの船尾甲板に出ていた同乗者が、うねりにより船体が傾いた際に落水して溺死した事例も発生しています。



### 事例4 過大な速力で波を乗り越え、着水時の衝撃で負傷した

〈発生日時・場所〉平成30年9月22日13時34分ごろ

相模川河口

〈概要〉水上オートバイEは、約2mの波がある中、後部座席に2人を乗せて遊走中、波の上り斜面で急加速して波頂を乗り越えた際、着水時に乗船者全員が落水し、うち1人が船体に腰を打ち付けて第一腰椎破裂骨折の重傷を負った。



相模川河口

〈主な原因〉船長が、無意識のうちに力が入ってスロ

ットルレバーを強く掴み、過大な速力で波を乗り越えたことで、着水時の大きな衝撃により乗船者全員が落水した。

〈教訓〉

相模川河口で発生したプレジャーボートの落水等による死傷事故では、その全てで波やうねりが影響しています。

高い波が発生している中を高速で航行することは大変危険です。波を越える際は十分に減速しましょう。

さらに、波の高さによっては、航行自体を取りやめる判断をすることも重要です。

## お役立ち情報 ③

運輸安全委員会HPでは、『プレジャーボートの安全運航のために』と題し、プレジャーボートの事故防止対策をまとめています。

(<https://jtsb.mlit.go.jp/guide/pleasure.html>)

是非、本ページをご覧いただき、事故防止に役立ててください。



## 4. まとめ

駿河湾及び相模湾には、人口の多い東京圏や愛知県などからも近く、鉄道や陸上交通の便が良いため、伊豆や葉山といった主要な観光地や夏場の遊泳地も含め、多数の海洋レジャー愛好者が訪れるスポットが点在しています。

**駿河湾は**、陸からの豊富な栄養分を含んだ水が4つの一級河川により流れ込み、その栄養源を求めて魚が集まるため、遊漁船やプレジャーボートの格好の釣り場となっています。一方、多くの船舶が出入港する大きな港が点在し、各々の港やその周辺で注意が必要です。**清水港**は、台風が本州の南西沖に停滞するときは南西のうねりが港内に進入するため、小型船舶は波、うねりに注意が必要です。また、遠洋漁業の基地として大型の漁船が利用する焼津港があるほか、他の港でも沿岸漁業を行う小型漁船の入出港が頻繁に行われています。プレジャーボートの船長は、**周囲の漁船や遊漁船の動向に注意を向けて操船する必要があります。**

**相模湾は**、東部の三浦半島沿岸では、出入りが多い地形で、陸岸付近では水深が浅いものの、少し沖合になると水深が急に深くなって1,000m以上になる所も存在します。さらに、陸岸付近は暗岩や洗岩が点在するなど險礁が多く、波が高くなるので、陸岸に寄って航行することは危険です。また、川の河口は、川の流れと沖合からの波とが相まって高波が立ちやすく、堆砂によって水深が減少したり、航行幅が狭められたりしています。**出航前に、操船予定海域の状況について、海図等を活用してしっかりと把握しておく必要があります。**

近年、免許不要のミニボートやレンタルボートが普及し、マリンレジャーが身近なものとなった一方で、操船者の知識・経験不足が主な原因となった事故等も増えています。駿河湾や相模湾でプレジャーボートを運航する際は、それぞれの特徴を知り、改めて、次の事故等を防止するポイントをおさえ、安全にマリンレジャーを楽しみましょう。

- 日頃から
  - ・定期的な点検・保守整備をしましょう
- 出航前
  - ・天気や風、波の予報を確認して出航判断をしましょう
  - ・燃料等の確認、航行予定海域の水路調査をしましょう
- 航行中
  - ・救命胴衣を適切に着用しましょう
  - ・携帯電話を防水ケースに入れて常に携帯しましょう
  - ・適切な見張りとお早めの避航動作をしましょう
  - ・船位の確認、安全な速力での航行をしましょう



運輸安全委員会事務局横浜事務所

〒231-0003 横浜市中区北仲通 5-57 横浜第2合同庁舎 19階

Tel : 045-201-8396 URL : <https://jtsb.mlit.go.jp/>

